

愛知県経済の現状と見通し<2014年7月>

1. 総括判断

景気の現状	消費増税の影響を受けてやや弱い動き	基調判断の前月との比較(注1)	水準評価(注2)	☀️ ☁️
当面の見通し	一時的に弱い動きとなるも徐々に持ち直す見通し		水準評価(注2)	☀️ ☁️

2. 個別項目の動向

個人消費	基調判断	やや弱い動き				
	基調判断の前月との比較	➡️	水準評価	☀️ ☁️		
<p>◀️現状▶️</p> <p>○『管内大型小売店販売』より、個人消費の動向を販売者側からみると(図表1)、5月の名古屋市百貨店販売額は前年比▲3.5%と2か月連続の減少。</p> <p>○品目別にみると、主力の衣料品(前年比+1.6%)と飲食料品(同+7.8%)はプラスとなったものの、消費税引き上げ前の駆け込み需要が大きくみられた貴金属、宝石、腕時計などの高級品を含むその他(同▲20.4%)が2か月連続の減少。</p> <p>○一方、6月の新車乗用車販売(含む軽)をみると(図表2)、31,391台・前年比+6.9%と2か月連続の前年比プラス。</p> <p>○車種別にみると、普通車(前年比▲4.3%)は3か月連続のマイナスとなったものの、軽乗用車(同+15.6%)、小型車(同+12.1%)ともにプラス。</p> <p>◀️見通し▶️</p> <p>○消費増税による駆け込み需要の反動は4月をピークに5月、6月と時間が経つにつれて縮小。物価上昇による実質購買力の低下が懸念されるものの、雇用・所得環境が増税後も堅調さをみせるなかで、夏場以降の個人消費は徐々に回復に向かう見通し。</p> <p>○乗用車については、消費増税による駆け込み需要の反動が普通車にみられるものの、小型車、軽乗用車などでは政策効果もあり比較的底堅く推移する見通し。</p>						
		図表1	名古屋市・百貨店販売額<前年比>			
		<p>(資料) 中部経済産業局「管内大型小売店販売」 (年/月)</p>			<p>◆5月 名古屋市・百貨店販売額</p> <p>312億円 前年比▲3.5%(2か月連続の減少)</p> <p>・うち衣料品 前年比+1.6%(2か月ぶりの増加)</p>	
		図表2	新車乗用車販売台数<前年比>			
		<p>(資料) 日本自動車販売協会連合会「自動車登録統計情報」 (年/月)</p>			<p>◆6月 新車乗用車販売台数<含む軽></p> <p>31,391台 前年比+6.9%(2か月連続の増加)</p>	

(注1)「基調判断の前月との比較」は、基調判断の表現を前月と比べたもので、↗️:上方修正、➡️:据え置き、↘️:下方修正を示す。例えば、「回復」→「減速」となれば下方修正、「回復」→「回復」なら据え置き、となる。したがって、矢印は景気全体ならびに個別項目の方向感を示すものではない。

(注2)「水準評価」は、景気全体ならびに個別項目の水準について5段階で判断するもので、☀️:晴、☀️☁️:晴～曇、☁️:曇、☁️🌧️:曇～雨、🌧️:雨、を示す。

お問い合わせ先	三重銀総研 調査部 別府
	電話:059-354-7102

雇 用 情 勢	基調判断	回復している		
	基調判断の前月との比較	→	水準評価	☀️
	<p>《現状》 ○5月の求人倍率をみると(図表3)、有効求人倍率(季節調整値)が1.57倍と4か月連続、新規求人倍率(同)は2.34倍と3か月ぶりのそれぞれ上昇。 ○愛知県は有効求人倍率で全国1位、新規求人倍率で全国2位となるなど引き続き全国レベルでも高水準で推移。</p> <p>《見通し》 ○消費増税の影響を受けて販売、生産の落ち込みがみられるものの、景気が底堅く推移するなか、雇用環境は回復傾向が続く見通し。</p>			

図表3 有効・新規求人倍率<季節調整値>

(資料)厚生労働省「一般職業紹介状況」

◆5月 求人倍率<季節調整値>

- 有効求人倍率: 1.57倍
前月差+0.01ポイント(4か月連続の上昇)
- 新規求人倍率: 2.34倍
前月差+0.06ポイント(3か月ぶりの上昇)

企 業 活 動	基調判断	一部に弱い動き		
	基調判断の前月との比較	→	水準評価	☀️ ☁️
	<p>《現状》 ○4月の鉱工業生産指数をみると(図表4)、前年比▲0.2%と8か月ぶりのマイナス。輸送機械(同▲2.2%)の生産減少が主因。</p> <p>《見通し》 ○愛知県の鉱工業生産に大きな影響を与えるトヨタ自動車の国内生産動向をみると、5月は2か月連続で前年比マイナス。小型車、軽乗用車などを中心に販売が堅調に推移しており、消費増税に伴う影響は軽微なものとなる可能性も。</p>			

図表4 鉱工業生産<前年比>

(資料)愛知県県民生活部統計課「愛知県鉱工業指数」

◆4月 鉱工業生産

- 前年比▲0.2% (8か月ぶりのマイナス)
- うち輸送機械 前年比▲2.2% (8か月ぶりの低下)

輸 出	基調判断	伸び悩み		
	基調判断の前月との比較	↘	水準評価	☀️ ☁️
	<p>《現状》 ○5月の名古屋港通関輸出額をみると(図表5)、前年比▲5.6%と17か月ぶりのマイナス。 ○仕向地別にみると、米国向け(前年比+4.6%)がプラスとなったものの、アジア向け(同▲3.1%)が17か月ぶり、西欧向け(同▲0.6%)が14か月ぶりのそれぞれマイナス。</p> <p>《見通し》 ○一般機械は中部5県主要メーカーの海外受注高(5月:前年比▲9.5%)が3か月ぶりの前年比マイナス。地域別にみると、好調の欧州向けが13か月連続でプラスとなったものの、北米向け、アジア向けがマイナス。もっとも、海外経済は底堅く推移しており、引き続き海外需要は堅調となる見通し。</p>			

図表5 名古屋港通関輸出額<前年比>

(資料)名古屋税関「管内貿易概況」

◆5月 名古屋港通関輸出額

- 8,506億円 前年比▲5.6% (17か月ぶりの減少)